

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0671900231		
法人名	社会福祉法人 南陽恵和会		
事業所名	こぶし荘認知症高齢者グループホーム こぶしの家		
所在地	山形県南陽市川樋508番地		
自己評価作成日	令和 3年 2月 4日	開設年月日	平成14年 3月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
 基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 3年 3月 5日	評価結果決定日	令和 3年 3月 16日

# (ユニット名)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境のもとで、四季折々の暮らしを楽しまれています。また、併設の特別養護老人ホームや、地域の皆様より連携を頂きながら、のんびり和気あいあいと安心して過ごして頂いております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員はそれぞれ理念を意識し、個人目標を作りその実践に努めているとともに、管理者等が評価指導することで、職員の質の向上に取り組んでいる。地域の認知症介護の拠点として、事業所の経験を活かし認知症サポーター養成講座やオレンジカフェへの協力など、地域貢献にも努力している。一昨年の目標達成計画に、口腔ケアの強化と、認知症ケアの向上を掲げ、歯科医療機関との連携による定期的な口腔ケアを導入し、またBPSD調査研究に参加しケア実践事例を報告するなど積極的に課題に取り組みサービスの向上につなげている。重度化に向けた対応では重度化対応委員会で併設施設の多職種の参加の中、利用者のケアが検討され、医療機関や福祉施設との連携を図る仕組みがあり、家族等の安心につながっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
65	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の主体性を大切にしたい関わりを第一に掲げている。また、可能な限り地域との連携を図ることを目標としている。	事業所の理念である「揺るぎなき尊厳のケア」の実践のため管理者は尊厳と環境作りを中心に職員へ意識付けをするとともに、会議等で話し合い理念の共有に努めている。職員はそれぞれ理念を意識し、個人目標を作りその実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	様々な地域の行事、催し等に参加しながら交流の機会を持っている。また、法人全体でも多様な面で地域の方々との協力体制が整っている。	コロナ感染症対策もあり今年度は外部との接触を控えているが、例年では、地域の花いっぱい運動や清掃活動に参加したり、児童館や小学校、公民館に出向いたり、来荘いただいたり、施設の秋祭りに招待したり、地域の祭りに参加したり、多くボランティアの来荘など、交流の機会が多かった。認知症サポーター養成講座やオレンジカフェへの協力など認知症介護の経験を活かし、地域への働きかけも取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	秋祭りでは、模擬店やステージイベントに地域の方々をご案内して一緒に楽しんでいる。また、法人全体が様々な地域の窓口になっている。サポーター養成講座やオレンジカフェの開催もその一環として捉えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活の様子や、事業計画の進捗状況、職員の資質向上、環境整備他、多岐にわたる内容で話し合いを行っている。会議を「満足度の把握と資質向上」に直結したものとして捉えており、その評価基準にもなっている。	コロナ禍の中でも、民生委員、市役所職員、家族代表など必要なメンバーと工夫しながら2か月に1回開催している。会議では事業所の行事や研修などの報告が行われるとともに、利用者の状況報告も行われ、様々な意見が交わされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険関連や生活保護受給者への支援、入退所状況の定期報告、行政の取り組みの利用についてなど、市の担当職員と協働して取り組んでいる。サポーター養成講座、オレンジカフェについては連絡会にも所属している。	運営推進会議に出席いただき事業所の状況や取組を理解いただいている。キャラバンメイト連絡会やオレンジカフェ連絡会を通じた協力関係を大切にしている。利用者にかかわる個別具体的な問題には、窓口と直接話し合い協力して問題解決に向け努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>法人として委員会を設置しており、定期的にその理解と検討の場を設けている。危険度を考慮しながら、可能な限りの拘束廃止に取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止の指針や研修を通して職員に周知している。法人による身体拘束廃止委員会は3か月ごと開催され、不適切な行為がないよう振り返りが行われている。事業所では重度化対応委員会で利用者の危険につながる行為等を話し合い、センサーの活用や見守ることで安全を確保し、拘束をしないで過ごせるよう努力している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人として委員会を設置しており、定期的にその理解と検討の場を設けている。また、内部研修会の開催など、確認と勉強をする機会がある。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に、成年後見人が関わられている事例があり、日頃から制度と実践を学ぶ機会になっている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所申請時など、入所事前にホームを内覧して頂いたり、細やかな説明に努めている。解約時は、その後の生活に不安の無いよう全ての環境が整ってから合意のもとで行っている。利用者、ご家族の意向を大切に、入所前、入所中にも意思決定支援の取り組みを行っている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>窓口及びその担当職員を明示しており、サービス利用開始時にご家族に説明している。掲示場所は、玄関ポーチ。</p>	<p>利用者アンケートを行い意見等いただいている。また、こぶしの家だよりや定期受診の報告など頻回に利用者に関する状況報告を行い、家族等とのコミュニケーションを図り意見等いただけるよう積極的に働きかけを行っている。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に資質向上を念頭に掲げ、ホームの状況把握にも熱心である。職員の意向を傾聴しながら、主体性を大切にしている。研修会の積極的受講や参画、人材育成にも積極的である。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「職員を大切にする法人」を目指している。就業時間帯他、出来る限り意向に添った条件の配慮がなされている。自主性を重んじ、職員間での協力体制と調整力は、上手く機能している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や関連機関主催の研修会への参加と、内部研修会の開催。また、グループや個々にコーチングする機会を確保している。	職員一人ひとりが目標を設定し、管理者等が評価指導することで、スキルの向上につなげている。法人の各種委員会による多様な研修の機会があると同時に、事業所内でも現状に応じた学ぶ機会を設け、職員の質の向上につなげている。認知症管理者研修など外部研修にも派遣している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症介護に関わる研修受講や情報交換の機会をつくりながら、更なる資質向上に取り組んでいる。	管理者はオレンジカフェ連絡会やキャラバンメイト連絡会を通じた、地域事業所との交流や情報交換の場を大切にしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特にコミュニケーションを大切にしながら、「快適な環境」を意識して早く馴染んで頂けるよう援助している。ご家族にも、入所当初は特に手厚い関わりをお願いしている。入所後1ヶ月経過した時点で、カンファレンスを開催している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	場所や時間を設定しながら、対話できる機会を大切にしている。文書で説明されている内容の他にも、様々な事例や想定など、より具体的な内容も話している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始までに必要な支援の把握に努めている。必要時には、複数回の事前面談も行っている。ご家族には「分かり易く」をポイントに整理して説明し了承を得ている。また、多職種連携も重視し、入所後の環境変化にも対応できる厚みのある援助策を確保している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	管理者は「もう一つの自分の家」という感覚である。利用者も職員もお互いが「もう一つの家」だったり「家族」だったり、そんな状況や場面がある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担を軽減することは重要だが、決してゼロにすることではないと考える。ご本人にとって家族は永遠であり、入所後もその絆はかけがえのないものとしてご理解を頂いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多くのことをご家族から教えて頂いている。職員もご家族も、ご本人を主体に考えることを最重要としている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係がここでも存在しており、輪の中に職員が入ってさらに輪を大きくすることや、大切に見守ることを意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	安心感の持てる退所を心がけている。退所後に必要な援助策を明確にしなが、利用者にも説明し、ご家族との合意ですすめている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や習慣、趣味など、環境が変わっても最大限継続できるよう考えている。また、日頃の関わりから可能性を見出だしたり、「得意分野での役割」や「どう暮らしたいか」を大切にしている。	事業所理念を実践するための重点課題に「人となりをさらに理解すること」を掲げアセスメントを重視し、センター方式シートを用い定期的に見直しをしている。職員が「心身の情報」を定期的に見直すことが、普段のケアの中から利用者の思いを紐解くことにつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	多くのことをご家族から教えて頂いている。職員もご家族も、ご本人を主体に考えることを最重要としている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や習慣、趣味など、環境が変わっても最大限 継続できるよう考えている。また、日頃の関わりから可能性を見出だしたり、「得意分野での役割」や「どう暮らしたいか」を大切にしており、ご本人、ご家族、職員など様々なアセスメントから把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に教えて頂いたもの、関わりの中で見えてきた可能性を大切にしながら作成している。	3か月ごとモニタリングを行い計画の評価が行われ、サービス担当者会議を経て6か月ごと見直されている。職員の意見や家族の意見等を踏まえながら、得意なことや役割等を加えながら、暮らしの支援を大切にしたい計画の作成が行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員ノート、ケース記録、受診や健康管理、多職種連携に関する記録などの活用を行っている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童館や小学校、公民館などに出向いたり、来荘頂いたりとの交流を図っている。その他、地域の方々や防災訓練や会議他、多様な協力体制の中でご理解とご協力を頂いている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携により、細やかな相談や助言も合わせ、きめの細かい診療体制が構築されている。	協力医療機関への定期受診は、事業所で受診支援している。専門医など協力医療機関以外の受診は家族が付き添い、状況に応じて事業所でも支援している。受診の際は、日頃の状況を記した「近況報告書」を持参し、診察の参考にさせていただいている。受診結果等は「受診関連ノート」に記録され、適切な医療が受けられるよう支援している。一昨年の目標達成計画に従い口腔ケアの強化は実践されている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院の看護師や、併設の特養看護師との医療連携により、アドバイスを受けながら、安心な医療面の支援が提供できている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご家族と共に医療機関と連携を図り、情報交換や可能な限りの支援を行っている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時や状況に応じて、重度化対応に関する説明を行い意向を確認している。ご家族と共に医療機関と連携し、情報共有しながら支援を行っている。</p>	<p>併設施設を交えた多職種から構成される重度化対応委員会が定期的開催され、対象となる利用者について意見交換と情報共有がなされている。重度化した場合は、本人や家族の希望に応じられるよう関係者で繰り返し話し合い対応している。医療機関や福祉施設との連携が図られ、家族等の安心につながっている。</p>	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人で行う研修や訓練への参加(救護、感染症対策、AEDなど)。また外部開催の講習会への参加。</p>		
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練実施と、法人組織の防災協力会を中心とした協力体制がある。ホットライン体制や行政との連携など。</p>	<p>年2回防災訓練が行われている。地域の住民の協力も得られている。ハザードマップの確認が行われている。2月の地震の際は、マニュアル通り職員が集まり点検が行われ、訓練の成果が表れている。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>法人の理念、職員の目標として掲げており、重要視している。</p>	<p>尊厳のケアを理念に掲げ、その実践に努力している。親しみのあまり不適切な声掛けや対応のないよう、普段から会議や職員同士で注意し合うよう努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対話やその他のコミュニケーション、一緒に過ごす時間、さりげなくいつも近くに誰かがいることを大切にしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切にしている。起床、食事や入浴他、できる限り意に添っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や美容品はご家族に協力を得て、その人らしさ(好み)を大切にしている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り職員も一緒に食事をしている。利用者の状態に合わせて、援助しやすい位置に職員が座り、全体を把握している。	事業所内で三食調理を行い、調理の過程に利用者も関わっていただくことで家庭的な食事となるよう努力している。利用者の希望や季節感を大切に献立となっている。行事食やおやつ作りなどアクセントをつけ食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立が重ならない様、栄養が偏らない様に工夫している。また、併設特養の管理栄養士の協力を得てカロリー計算を依頼する他、献立についてもアドバイスをもらっている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯管理と合わせて洗面時と就寝時に口腔ケアを行っている。日中帯も状態に合わせて支援している。また、歯科医・歯科衛生士との協働連携でケアの強化も図っている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄状況を記録し、排泄パターンを把握した援助を行っている。オムツ、パット類の利用者もできる限りのトイレ排泄を援助している。	排泄状況を把握し適時の声掛けや誘導でなるべくトイレでの排泄を大切にしている。リハビリパンツの使用や尿取りパットの種類等カンファレンスで話し合い、介護計画に具体的な排泄支援を位置づけ、評価しながら排泄の自立に向け支援を行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談しながら、ご本人の状態に合わせた援助を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者一人ひとりに合った希望やタイミング、必要性や情緒面の配慮などニーズに応じた援助を行っている。併設特養の機械浴での入浴など重度化対応の準備もある。	入浴の希望をなるべく尊重している。入浴を好まない方には、声掛けや誘導を工夫して清潔が確保できるよう支援している。身体状況に応じて、併設施設の機械浴等を使用し安全に入浴できるよう努めている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握しており、日中でも休息の時間を確保している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタルチェック他、症状の変化などは全員分記録され、主治医への報告にも繋げている。主治医との密な連携により、内服薬は処方される。処方薬の明細は、ファイルしていつでも確認できるようにしている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員からの案内も重要だが、それぞれの得意分野を把握して関わることをしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>地域交流、バスハイク、定期受診など。ご家族との外出はご本人、ご家族の希望を最優先して支援している。重度化などの理由にて外出が困難な場合には、電話や面会をお願いしている。</p>	<p>コロナ感染症防止のため外出の機会は少なくなっているが、例年では季節のバスハイクや地域交流としてお祭り参加や小学校等の行事への参加など外出の機会は多い。広い敷地を利用して外気浴など外気に触れる機会を大切にしている。</p>		
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人やご家族の希望をふまえて支援をしている。管理の委任がある場合は、管理者が出納を明らかにし、了承を得ている。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話でご家族と会話して頂くことや、携帯電話の持ち込みによる通話の援助を行っている。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>木目調のものが多く建物の内部は、とても落ち着いている印象。ホールでの家事や趣味活動、お茶団欒など、のんびりとした時間が流れている。テレビ鑑賞しながら談笑されたり、新聞を眺めながらコーヒーを楽しむ方もおられる。</p>	<p>居間食堂は広く、適度に温度や湿度が保たれ換気が行われている。季節感のある飾りつけや、利用者の作品等が掲示され、畳敷きの部分があり思い思いに過ごせる空間である</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールはテーブルを3台設置。隣には居間(和室)もあり、自由な空間で過ごせる環境となっている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品や装飾品の持ち込み、居室のレイアウトなどは、ご家族にもお願いしている。	馴染みの物を持ち込むことができる。思い出の写真の掲示や、椅子・タンスなどの家具の配置など、利用者の意向に沿って、居心地よく過ごせるよう努力している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴や習慣、趣味など、環境が変わっても最大限継続できるよう考えている。また、日頃のケアの中から可能性を見出だしたり、得意分野での役割やどう暮らしたいか(個性)を大切にしている。		